

高 等 学 校

平成 2 7 年度

教育研究員研究報告書

芸術（美術）

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
	検証授業Ⅰ	6
	検証授業Ⅱ	12
	検証授業Ⅲ	18
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

研究主題	主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れた鑑賞の活動の在り方
-------------	------------------------------------

I 研究主題設定の理由

1 「新しい時代に必要となる資質・能力」と高等学校芸術科（美術）の関連について

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（文部科学省 平成 26 年 11 月）では、「新しい時代に必要となる資質・能力を子供たちに育むためには、『何を教えるか』という知識の質や量の改善はもちろんのこと、『どのように学ぶか』という学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習や、そのための指導の方法等を充実させていく必要がある。」と示されている。また「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について（答申）」（中央教育審議会高大接続特別部会 平成 26 年 12 月）では「現行学習指導要領において、知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指す。」と示されている。このような主体的・協働的に学ぶ学習や思考力・判断力・表現力等を育む学習などの社会の要請に対して、高等学校芸術科（美術）として応えていく必要がある。

2 主体的・協働的に学ぶ鑑賞の活動

美術において主体的・協働的に学ぶ学習の実践例としては、MoMA（ニューヨーク近代美術館）の取組が挙げられる。

MoMA では約 20 年前から VTS（ビジュアル・シンキング・ストラテジー）という対話型鑑賞の手法を取り入れてきた。この VTS が提唱される背景には、従来のガイド型鑑賞では参加者の満足度とは裏腹に、プログラム終了直後ですら記憶していないというデータが出たからである。MoMA ではこの対話型鑑賞を取り入れることにより思考力、言語力、記述力、ヴィジュアル・リテラシーを高めることができた。すなわち、鑑賞者が主体的に考え、協働的に意見を交換することで学びが深まったと言える。

従前の鑑賞に比べ、この対話型鑑賞の手法は鑑賞者が自由な発想で学ぶことができることから、高等学校芸術科（美術）における課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の在り方としても生かすことができると言える。

また、このような鑑賞の活動は、学習指導要領における「内容の B の指導に当たっては、作品について互いに批評し合う活動などを取り入れるようにする。」（高等学校学習指導要領 芸術科 美術 I 3 内容の取扱い）ことの確かな学びにもつながることから、高等学校芸術科（美術）の指導事項にも位置付けられる。

これらのことを踏まえ、平成 27 年度教育研究員のそれぞれの過去の実践を振り返ると、表現の活動では概ね主体的に取り組ませることができているが、鑑賞の活動の在り方には改善すべき点があるという共通認識があった。特に、授業で扱われる鑑賞の活動において、参考作品や対象の鑑賞、講評会、合評会（相互鑑賞）、美術史、ワークシートなど様々な実践が挙げられたが、表現の時間に比べ鑑賞に充てる時間は極端に少ないという現状とともに、生徒

同士が協働し学び合うような場面の少なさが明らかになった。

以上のことから、高等学校芸術科（美術）において「新しい時代に必要となる資質・能力」を育むためには、鑑賞の活動の指導方法を改善し、充実させることが課題であるという考えに基づき、本研究では「主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れた鑑賞の活動の在り方」を主題とした。

Ⅱ 研究の視点

平成 27 年度の高等学校芸術（美術）部会の研究員は 4 名であり、勤務する学校のタイプは中高一貫校、定時制課程、総合学科と、様々である。しかしながら、研究主題は共通であるため、各研究員が芸術科（美術）の授業において生徒に「新しい時代に必要となる資質・能力」を身に付けさせるために、各校の生徒の実態に即した指導方法の改善に取り組み、検証授業によって生徒の変容を見取ることとした。

1 高等学校部会の共通テーマについて

平成 27 年度教育研究員高等学校部会の共通テーマは『思考力』、『基礎力』、『実践力』を育むための、主体的・協働的な学習の指導の在り方である。

前述の「新しい時代に必要となる資質・能力」と関連し、「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」（国立教育政策研究所 平成 25 年 3 月）において、「21 世紀型能力」が示された。高等学校各教科等の指導においても、協働的に学ぶ学習活動や言語活動等を適切に実行することにより、生徒の「思考力」及び「思考力」を支える「基礎力」を育み、更にそれらの活動を通して自己形成、人間関係形成等に関わりながら「思考力」の使い方を方向付ける「実践力」を育むことにつなげることができると考える。

2 生徒の実態、教育課題並びに目指す生徒像について

（1）思考力

「特定の課題に関する調査（論理的な思考）」（国立教育政策研究所 平成 25 年 3 月）の調査結果によると、高校生は「必要な情報を抽出し、分析する」力の育成状況に課題があることが読み取れる。また、「批判的思考について－これからの教育の方向性の提言－」（中央教育審議会高等学校教育部 平成 24 年 9 月）では、「高校生が身に付けておくべき最も重要なものが、『考える力（批判的思考力）』である。」と示されている。これらのことから、高校生の論理的・批判的思考力の不足が推測される。

このような実態とともに、「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」（国立教育政策研究所 平成 25 年 3 月）では、「論理的・批判的思考力は、学習活動のさまざまな問題解決のプロセスで発揮される分析、総合、評価などに関わり、物事を多様な観点から論理的に考察する思考力である。」と示されていることを踏まえ、本研究が目指す生徒像の一点目を「物事を多様な観点から論理的に考察できる生徒」とした。

（2）基礎力

高等学校学習指導要領第一章総則には、生徒の言語活動の充実が示されており、また、解説には「言語は論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが求められている。」と示されて

いることから、言語に関する能力の育成を重視し、各教科等において言語活動を充実することは、普遍の教育課題であると言える。

さらに、先に挙げた「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」で示されている基礎力の一つである言語スキルの向上の視点から、本研究が目指す生徒像の二点目を「他者と意志を明確に伝え合える生徒」とした。

（３）実践力

「生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識調査」（文部科学省 平成 27 年 3 月）の調査結果では、日本の高校生は「自分を価値ある人間だ」という自尊心をもっている割合が半分以下であるとともに、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識が他国と比べて低いことから、社会参画意識の低さが読み取れる。また、「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」では、実践力を「日常生活や社会、環境の中に問題を見つけ出し、自分の知識を総動員して、自分やコミュニティ、社会にとって価値のある解を導くことができる力、さらに解を社会に発信し協調的に吟味することを通して他者や社会の重要性を感得できる力」と位置付けるとともに、「自己形成、他者との人間関係形成、未来や未来形成に関わる力や価値」を実践力の構成要素としている。これらのことから、本研究が目指す生徒像の三点目を「日常生活や社会、環境の中に問題を見付け出し、他者や社会の重要性を感得できる生徒」とした。

Ⅲ 研究の仮説

鑑賞の活動において、主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れることにより、生徒の思考力・基礎力・実践力（21 世紀型能力）が育まれる。

美術において、自他の作品等を多様な観点から論理的に考察できる能力（思考力）、他者と創意や工夫を明確に伝え合える能力（基礎力）、自他の作品等や鑑賞の対象等から他者や社会の重要性を感得できる能力（実践力）は、学校教育法等に示された学力の三つの要素のうちの「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」に関連付けられる。また、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」は高等学校芸術科（美術）において育成する能力のうち、表現における「発想や構想の能力」と鑑賞における「鑑賞の能力」に主に位置付けられている。つまり、思考力・基礎力・実践力（21 世紀型能力）は鑑賞の活動の充実によって育まれるといえる。一方、生徒の思考力・判断力・実践力（21 世紀型能力）を育むことによって鑑賞の活動の学びは更に深まり、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」がより育成され、双方向に関連し合いながら働くことも考えられる。

これらのことから、本研究では、「生徒の実態・教育課題」及び「目指す生徒像」、「学習指導要領との関わり」に基づき、主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れた鑑賞の活動によって「21 世紀型能力」が育成されることを主旨とした仮説を立てた。

Ⅳ 研究の方法

1 「21 世紀型能力」と鑑賞の関わり

本研究は最初に、平成 27 年度教育研究員高校部会のテーマで掲げられている思考力・基礎力・実践力の在り方について検討した。これらは、国立教育政策研究所が示している「21 世紀型能力」を構成する力である。次に、「21 世紀型能力」を身に付けるために必要な主体的・協働的に学ぶ学習は、美術科の目標を達成するための方策として従前から取り組まれてはいるものの、鑑賞の活動においては特に関わりが深いにも関わらず、積極的には取り組まれてこなかったのではないかと考えた。そこで、研究の内容を鑑賞の活動に絞り、指導方法改善の視点をもって研究を行った。

2 検証授業の実践

本研究は仮説を検証するために、平成 27 年度教育研究員の所属校において、鑑賞の活動に主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れた三つの検証授業を実践した。

それぞれの検証授業については、生徒の思考力・基礎力・実践力を関連させながら共通に育むことをねらいとしながらも、授業改善のための具体的な方策をより一層明確にするために、主に一つの力に働くための取組の方向性をもたせた鑑賞の活動を位置付けることとした。

なお、検証授業後には、指導方法を改善した結果、生徒がどのように変容し、思考力・基礎力・実践力がどのように育まれたかを確認するための分析を行った。

V 研究の内容

1 検証授業

(1) 検証授業Ⅰ 主に思考力を育む鑑賞の活動

ア 取組の方向性

生徒が集団の活動の中で他者の意見に耳を傾けながら多角的に分析することで、新しい意味や価値を創造する。

イ 具体的な方策

シルクスクリーンの技法を使った T シャツのデザイン及び制作を行わせる。デザインの仮決定の段階で論理的な思考力を働かせながらグループで話し合う鑑賞の活動を行わせ、デザインを本決定させる。さらに、このことを表現の活動の充実に生かす。

(2) 検証授業Ⅱ 主に基礎力を育む鑑賞の活動

ア 取組の方向性

生徒が主体性をもって自己の見方、考え方で作品を捉え、言語を駆使して他者と伝え合う。

イ 具体的な方策

版画作品をグループで鑑賞させ、言語活動を充実させる。さらに、ドライポイントの技法を用いて模写させることによって、鑑賞の活動の効果を高める。

(3) 検証授業Ⅲ 主に実践力を育む鑑賞の活動

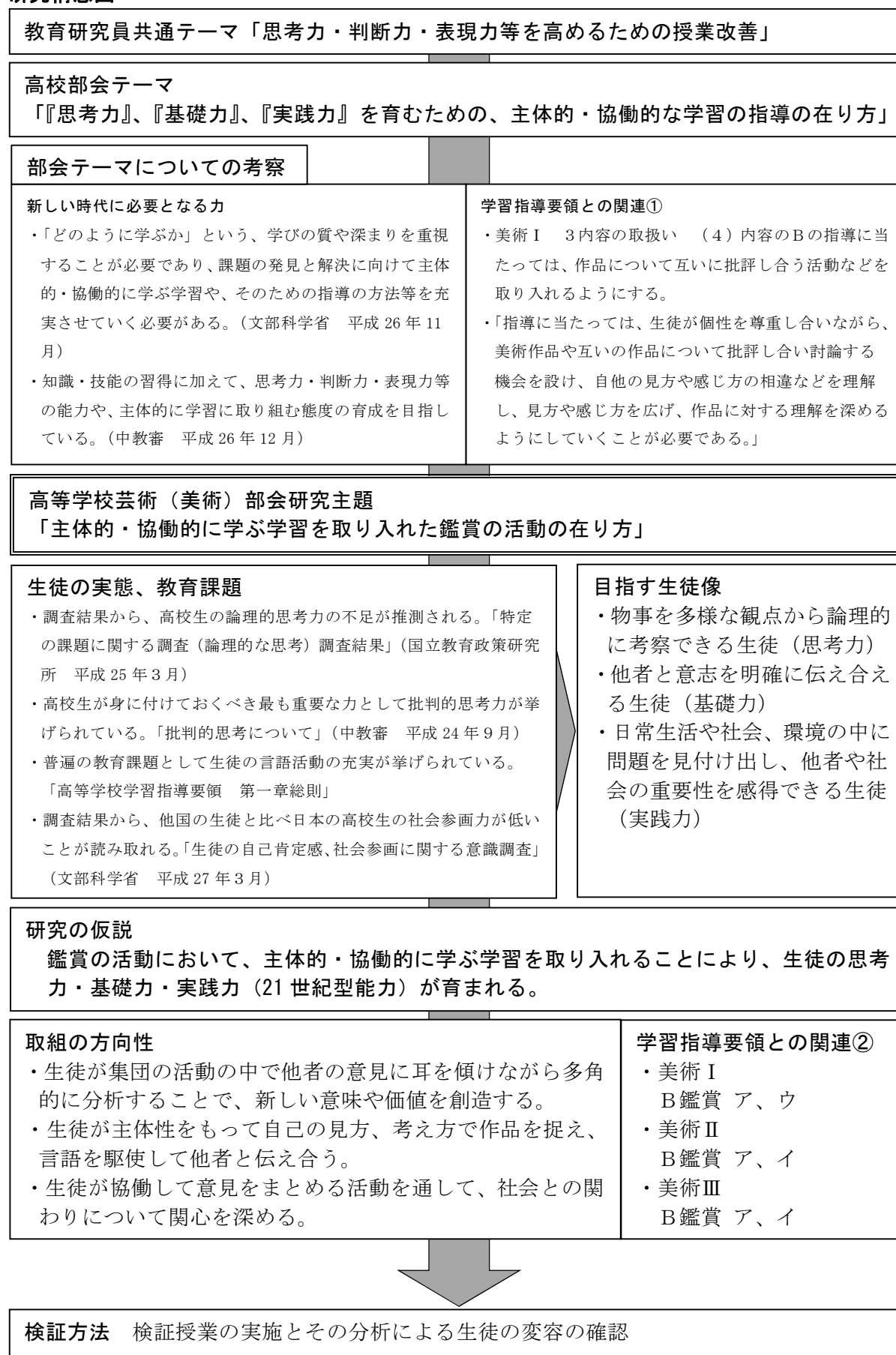
ア 取組の方向性

生徒が協働して意見をまとめる活動を通して、社会との関わりについて関心を深める。

イ 具体的な方策

専門学校生が制作した建築模型をグループで鑑賞させ、制作意図などを考察させる。さらに、自らの将来について考えを展開させ、社会と自己の在り方について考えさせる。

研究構想図



検証授業Ⅰ

科目名	芸術（美術Ⅱ）	学年	2年
-----	---------	----	----

1 題材名

「シルクスクリーンによるTシャツの印刷・Tシャツのグループ展」

A表現(1) イ、ウ B鑑賞 ア

2 題材の指導目標

シルクスクリーンの技法を用いた表現に興味をもち、グループ共通テーマの条件の中で、自己の感性を働かせてデザインを考案し、更に広い視野をもって分析したり批評し合ったりして互いの作品を鑑賞する能力を高め、より創造的な表現を実現する。

3 本題材と研究主題との関連について

本題材では研究主題に迫るための取組の方向性として、主に思考力を育むことに主眼を置いた。まず、生徒が題材に興味をもって学習できるよう生徒を数人ずつのグループに分け、グループごとに展示のテーマを決めさせた。このことにより、互いに意見を出し合ったり対話したりしやすい環境が設定され、生徒一人一人が思考力を働かせながらデザインの構想を練るとともに、生徒同士が互いに刺激を受け合いながら主体性をもって学習することができた。さらに、クラス全員で各デザインの改善点などを相互に意見し合い、その意見によって明らかとなった課題と改善策をグループ内でまとめ、全体へ発表する活動を行わせた。

また、基礎力・実践力を育むことにもつながる具体的な方策をとって、主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れた鑑賞の活動を行った。以下、三つの手だてを述べる。

(1) 主に思考力を育む鑑賞の活動

主体的・協働的に学ぶ鑑賞の活動に生かせるようにワークシートの形式を工夫する。批評し合ったり他者の意見に耳を傾けたりしながら対象を多角的に分析することをとおして、新しい意味や価値を創造することができるよう、「更に作品をよくするための感想」を記入させる。

(2) 主に基礎力を育む鑑賞の活動

鑑賞の活動において、生徒が主体性をもって自己の見方、考え方で作品を捉え、言語を駆使して他者に伝えることができるよう、制作した生徒のグループのテーマと、制作した生徒自身のデザインのコンセプトを記入させるワークシートを作った。また、鑑賞者が意見を記入できるような形式とした。

(3) 主に実践力を育む鑑賞の活動

生徒が社会との関わりについて関心を深めることができるよう、グループによる活動の一環として、制作終了後には展示、発表を目的としたグループ展を実施することとし、計画から立案、制作までの全ての段階で意見を交換し合い、協働的に学ぶ学習を取り入れた鑑賞の活動を行った。

4 評価規準

	ア 美術への 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規準	①シルクスクリーンに興味をもち、生徒間で協力し、主体的に表現や鑑賞の活動をする意欲、態度がある。 ②題材の趣旨を理解し授業中内のグループの活動と個人の活動に積極的な態度で学習している。 ③Tシャツの制作に興味をもち、積極的な態度で学習している。	①Tシャツになることを想定し、効果を考えながら十分にデザインを検討している。 ②グループ内の意見交換から自分たちに適したテーマとともに、他者の意見からデザインの課題及び改善策を見付けられる。 ③自己の思いを大切にしてい心豊かにTシャツの構想を練っている。	①孔版画の特徴を理解し、Tシャツのデザインや製版を創造的、計画的に行い、丁寧な制作を心がけている。 ②孔版画、カッティング技法を理解し、表現方法を工夫している。 ③カッティングのための原画を明解に描くことができる。	①作品や作者の個性などに関心をもち、発想や構想の独自性、表現の工夫などについて、多様な視点から分析し、理解している。 ②作品のよさや改善した点らよくなる点などを分析し、理解している。 ③多くの意見に耳を傾け、自己の作品のよさに気づき、自己の制作に生かしている。

5 題材の指導と評価規準（14 時間扱い）

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第1・2時	シルクスクリーンで印刷された作品を鑑賞する。	・孔版画を理解させ、シルクスクリーン、カッティング技法で印刷された参考作品を提示し、解説する。	アー③ エー① (観察、ワークシート)
第3・4時	・グループを作り、テーマ、方向性を話し合う。 ・グループで決めたテーマにそって個々のTシャツのデザインを考案する。 ・グループ内で互いのアイデアを確認し話し合い、互いの意見を交換し合う。 ・デザインを仮決定する。	・意見交換によってテーマを深められるよう指導する。 ・できるだけ様々なスケッチをさせる。 ・グループのテーマと個人のコンセプト、デザインを照らし合わせるよう指導する。 ・デザインの仮決定ができていない生徒は次週までに完成させるよう指導する。	アー①② エー②③ (観察、ワークシート、発表)

第5・6時	・仮決定した個々のデザインの鑑賞にコメントする。 ・コメントを受け、個人で考えをまとめ、グループ内で再検討し、発表する。	・鑑賞者がコメントしやすいよう、デザインを制作した生徒はワークシートにコンセプト等記入するよう指導する。 ・デザインの決定に生かせるよう、各グループの発表について講評を行う。	アー①② イー① エー① (観察・ワークシート・発表)
第7・10時	・デザインを決定する。 ・厚紙に原画を貼る。 ・原画の上にワックスを塗り、ニス原紙を密着させる。 ・原画のとおり、ニス原紙をカッターにより、切り抜く。	・個別に指導する。 ・制作内容を確認し、失敗のないよう指導する。 ・空気が入らないよう指導する。 ・丁寧な制作を心掛けるよう指導する。	アー② ウー① (観察・ワークシート)
第11・12時	・ベニヤ板で木枠を作り、木枠をシルクに張る。 ・アイロンで版下を木枠に密着させる。 ・Tシャツに印刷する。	・電動のこぎりの扱いに注意するよう指導する。 - 木工用接着剤が画面の布に付かないよう指導する。 ・木工用接着剤が乾燥したことを確認させる。 ・制作工程を誤らないよう指導する。	アー② ウー①(観察・ワークシート)
第13・14時	・完成した作品を互いに鑑賞する。 ・グループ全員によるテーマと作品を発表する。 ・ワークシートを記入する。	・ワークシートにグループのテーマ、自身の作品のコンセプトを記入し、展示に向けた計画を発表するよう指導する。	アー①② エー①② (観察・ワークシート・発表)

6 成果と課題

成果

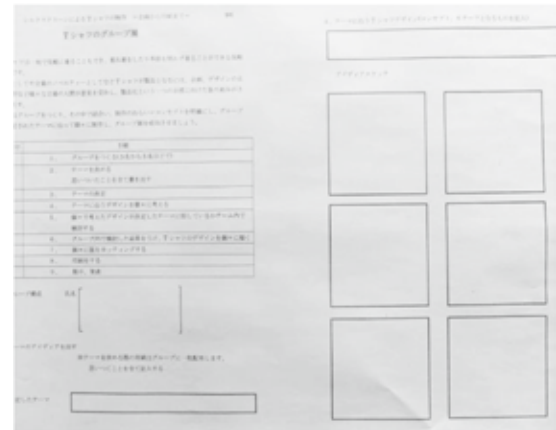
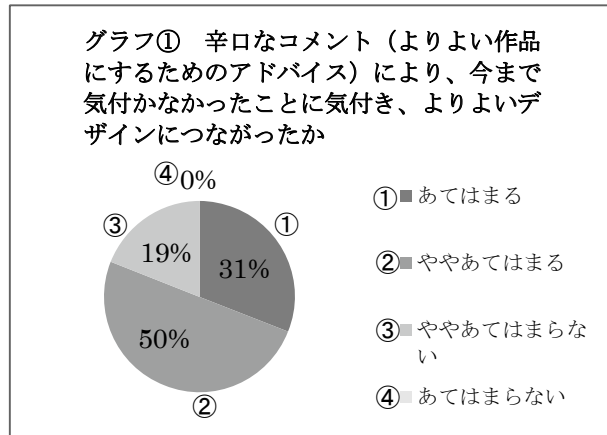
本研究以前に実施していた本題材では、主に制作終了時の鑑賞であったり、素描の授業などにおいては制作途中の鑑賞活動を行ったりしていたが、生徒の発表に対して教師が講評を行うのが主な活動の形式となっており、生徒間で交流したり、意見を述べ合ったりする活動に目を向ける機会が少なかったように思う。

そこで、検証授業では、生徒が集団の活動の中で他者の意見に耳を傾けながら多角的に分析することで、新しい意味や価値を創造することができるよう、通常の「感想」と、鑑賞する生徒がデザインに対して批評的な側面で意見することを引き出すための「更に作品をよくするための辛口な感想」の二つを記入する欄を設けた鑑賞シートを用いた。

また、本校の生徒の実態を考えると「批評し合う」という言葉を使用すると生徒間で議論が進まないことが予測されたため、生徒にとって活動の方向性がより分かりやすい「辛口な感想」という言葉を使用し、批評的な活動へつながるよう指導した。

事後アンケートを実施したところ、「辛口なコメント(よりよい作品にするためのアドバイ

ス)により、今まで気付かなかったことに気付き、よりよいデザインにつながったか。」という質問に対し、およそ30%の生徒があてはまると回答し、50%の生徒がややあてはまると回答した。一方、ややあてはまらないと回答した生徒も20%ほどいた。あてはまらないと回答した生徒はいなかった。(グラフ①)



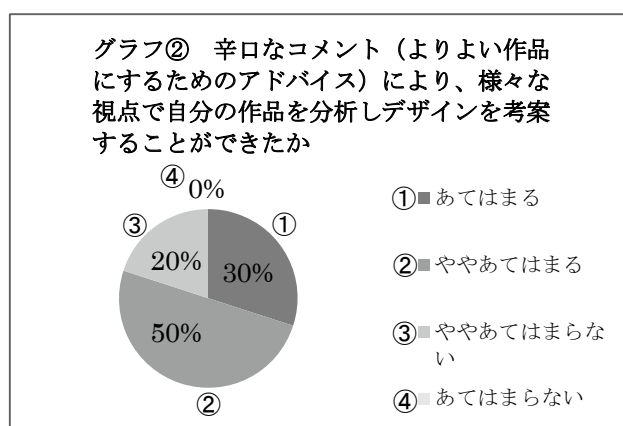
(授業初回ワークシート)

「影の付け方など、よいと思っていたことが、あまり効果がなかった。」
「ロゴと背景を加えるという発想が無かったので、有難く使わせてもらう。」
「コメントのおかげでハリネズミの、いいトゲ感を出すことができた。」
「色使いの大切さ」
「影の部分を増やした。」

(生徒記述)

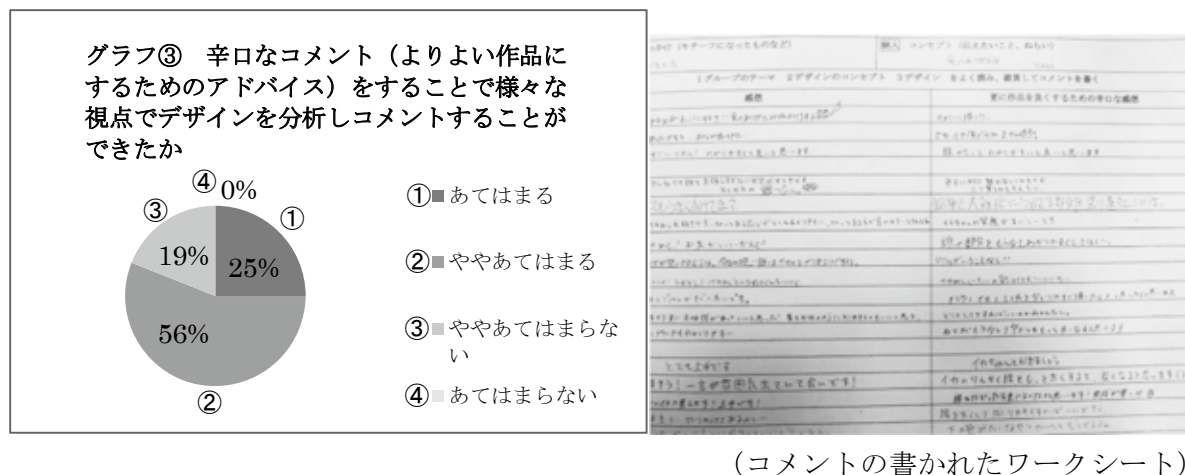
また、「辛口なコメント(よりよい作品にするためのアドバイス)により様々な視点で自分の作品を分析し、デザインを考案することができたか。」という質問に対し、30%の生徒が「あてはまる」50%の生徒が「ややあてはまる」と回答し、「ややあてはまらない」の回答は20%であった。「あてはまらない」の回答はなかった。(グラフ②)

生徒は、批評し合う活動をとおして自分自身の作品を客観視し、更に作品の改善へ向けて制作する表現の活動へ発展させることができていた。



(グループでテーマのアイデアを出し合う)

「友人の作品に辛口なコメント(よりよい作品にするためのアドバイス)をすることで様々な視点でデザインを分析し、コメントすることができたか。」という質問は、Tシャツのデザインを鑑賞して、批判した側の回答である。25%の生徒が「あてはまる」、56%の生徒が「ややあてはまる」と回答し、「ややあてはまらない」の回答は2割弱であった。あてはまらないと回答した生徒はいなかった。(グラフ③)



「こうすれば、もっとよくなるんじゃないか、これは必要ないんじゃないかと、一步引いてデザインというものが見ることができた。」

「デザイン全体の雰囲気など」

「デザインのサイズなどの描いている人には分かりにくい視点でコメントした。」

「アドバイスするのは難しいと思った。テーマに沿っているかどうかを意識した。」

「もっと、描き込んだ方がいいものがあつた。」

「デザインの複雑さを考えて、簡単にしたり、描き込んだりするべきだと、コメントしました。」

(生徒記述)

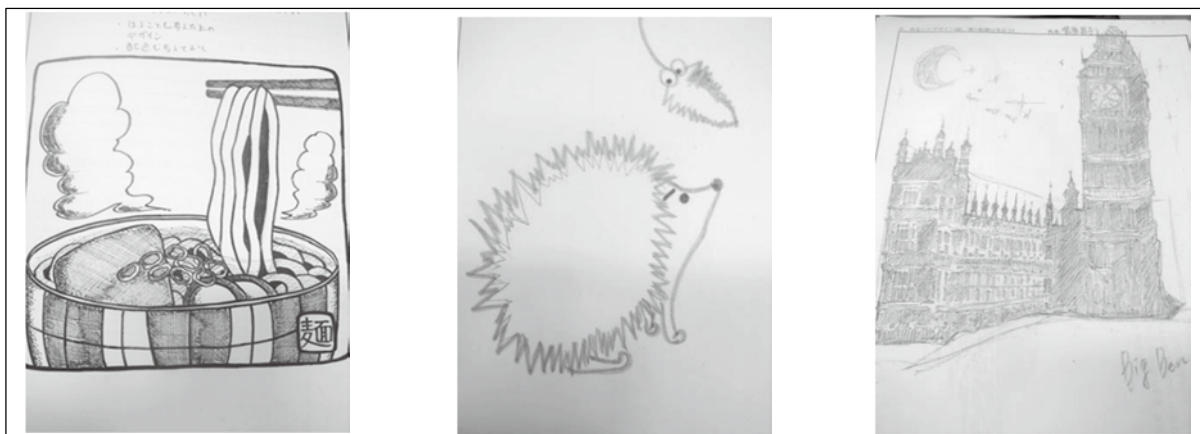
デザインのよさや、制作者の意図などを様々な視点から読み取りつつも、批評し合い、多角的に分析させる鑑賞の活動を取り入れた学習により、意見した側とされた側の相互に、活動前とは異なる視点をもたせ、より新しい意味や価値を創造させることができた。

また、生徒のコメントや成果物から、主体的で協働的に学ぶ学習を取り入れた鑑賞の活動により、グループで協働し、テーマや意見をまとめ、展示の活動を通して、自己と社会の関わりについて考えられたことも見取れた。

課題

今回のアンケートで「あてはまらない」の回答はなかったが、「ややあてはまらない」と回答している生徒が約20%となっている。この結果は、自分の作品に大きな自信をもち、個人の活動としての制作に喜びを感じる生徒が一定数いることによると考える。今後、より一層ねらいを理解させた上で、他者の意見を受け入れながらより創造的な表現につなげられたことを実感させられるよう、鑑賞の活動の指導方法を改善していく必要がある。

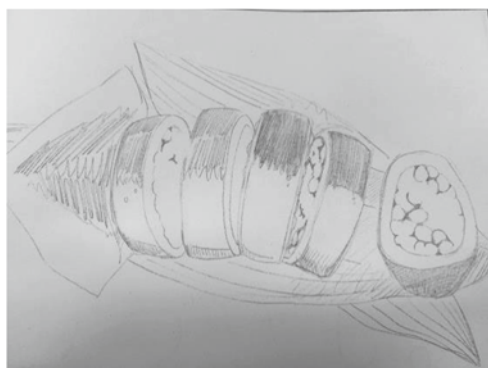
鑑賞の活動後に自らのデザインを分析し「線を太くする」、「彩りを考える」、「影の付け方を考慮する」点において改善した生徒作品



(鑑賞の活動前の生徒作品)



(鑑賞の活動後の生徒作品)



(鑑賞の活動前の仮デザイン)



(鑑賞の活動後に決定されたデザイン・
カッティング中)

検証授業Ⅱ

科目名	芸術（美術Ⅱ）	学年	2年
-----	---------	----	----

1 題材名

「版画の世界」 A表現（1）ア、ウ B鑑賞（1）ア、イ

2 題材の指導目標

古典作品について関心をもち、主体性をもって視覚から得たイメージを美しく言語化しながら感性を働かせる活動を行い、版画の技法を習得することで創造的で心豊かな表現を実現するとともに、作品の鑑賞を通して古典美術を愛好する心を養う。

3 本題材と研究主題との関連について

本題材では、検証授業としての取組の方向性である生徒の基礎力を育むため、他者の視点や考えを読み込み合うことによる協働的な学びの中で作品を深く味わわせる鑑賞の活動を行わせるとともに、鑑賞の対象から得られる視覚情報を言葉に置き換えて的確に伝え合うことをとおして、美術に関連する基礎的な言語能力の育成を目指した。

なお、基礎力とともに、それに関連させながら思考力・実践力を育むための具体的な手だては以下のとおりである。

(1) 主に思考力を育む鑑賞の活動

鑑賞の対象からの視覚情報を言葉に置き換える活動を通して、生徒の多様な視点を認め合わせ、主体的に鑑賞の活動に取り組ませる。また、その言葉を伝え合う活動をとおして、新たな視点をもって多角的に作品を分析させ、批判的思考力を育成する。

(2) 主に基礎力を育む鑑賞の活動

制作に入る前に版画作品を言語化する鑑賞の活動を取り入れることで、生徒の基礎的な言語能力の育成を目指す。この活動が主体的に行われるよう、生徒にとって親しみのある「つぶやき」という用語を用いた「つぶやきのプリント」を活用する。

また、作品を深く鑑賞して言語化する活動を通して作品を深く理解させ、生徒が積極的に表現しようとする姿勢をもつことにつなげる。

(3) 主に実践力を育む鑑賞の活動

「つぶやきのプリント」を読み合う活動を通して、他者の意見を聞かせることにより、社会と自分との関わりを認め、関心を深めさせる。さらに、自身の考えや表現意図を明確にした上で他者と伝え合えるようにすることにつなげる。

4 評価規準

	ア美術への 関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の 評価規準	①毎時間ごとの課題 に対して積極的に活 動している。 ②提示する資料や指 導者の説明をしま り聞き、アドバイスを 制作に生かそうとし ている。	①制作課題を見付け て明確化し、主題を生 成している。 ②出てくるアイデア を肯定的に受け入れ、 よい部分を生かして いる。 ③複数の解決策を出 し、試行錯誤を繰り返 し取り組んでいる。	①習得した技能を活用 し、積極的に創造的な表 現に生かしている。 ②自分らしいイメージ を形や言葉で明確に表 わしている。 ③完成までの見通しを 立てて計画的に制作を 進めている。	①古典作品やその技法に親しみ、作 品の中に生かしている。 ②主体的な鑑賞の活動を通して、感 じたものや得た視覚情報を他者と 明確に伝え合っている。 ③他者と作品のよさや美しさを共 有するとともに、批評し合う活動を とおして多様な見方を理解し、新し い意味や価値を創造している。

5 題材の指導と評価規準（14 時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第 1 ・ 2 時	・題材について知る。 ・版画技法について学ぶ。作 品の構成や概要を把握する。 ・ボールペンを用いてハッチ ング技法を習得する。	・題材説明は、過去の作品や印刷に使った版やプレス機などを 触らせるなどして実感がわくようにする。 ・ハッチングは、ワークシートを用いて、全ての生徒が習得し、 成就感を覚え作品の制作に生かせるように簡易的なものにす る。	ア - ① イ - ① (態度、ワーク シート)
第 3 ・ 4 時	・レンブラントの版画作品 「病人たちを癒すキリスト」 を鑑賞する。 ・群像図の人物が、何をつぶ やいているか、どういう状態 にあるのかを考え、吹き出し に書き込む。 参考作品に描かれている人 物 1 名を選び、物語を創作す る。 ・個々の物語を相互鑑賞し、 他者の視点や考えを基に自 分の作品を振り返る。	・人物になりきり感じることを、思ったことを短くても構わない ので言葉で表すように促す。 ・発想が進まない生徒に関しては、人物たちのつぶやき(温度・ 湿度・匂いなどの考察も含め)考えさせられるようにする。 ・相互鑑賞は、生徒が席を移動しながら行う。教科書の画像を 参照しながら付箋紙に、感想や自身との相違点、よかった点等 自由に書かせる。 ・付箋紙に書くことは、短文でよいので明確で分かりやすく書 くことが重要であることを理解させる。 ・他者からの付箋紙を読む時間も与え、自身になかった視点や 考えや表現を受け入れ、次時からの制作に役立てられるように する。	ア - ① エ - ①②③ (発言、ワーク シート)

第5 ～ 10 時	・ニードルの扱いについて学ぶ。ドライポイントの表現技法を学ぶ。 ・板版に彫刻を行う。 ・板版の仕上げ	・第1・2時においてニードルの取り扱いに気を付けるように指導をする。 ・ハッチングは、ボールペンで行ったことを思い出させながら制作を進めさせる。 ・版制作で出たバリは丁寧に取除くように伝える。	イ - ② ウ - ①②③ (態度、作品)
第11 ～ 13 時	・印刷について学ぶ。 - 板版にインクを残し白と黒の明暗について学ぶ ・印刷する。 ・作品を仕上げる。	・プレス機の取り扱いには十分気を付けるように伝える。 ・版にどれだけインクを残すかで印刷した際の明暗が出る。絵画を描くような感覚でインクの拭き取りを行うように指導をする。 ・最低3回は印刷を行わせる。 ・印刷ごとに印刷紙を変え、紙の材質や性質を体で感じるとともに刷り上がりの変化なども含めて考察を深めさせる。	ウ - ①②③ (態度、作品)
第14 時	・自他作品鑑賞について ・作品を並べ、他者と自分の作品を相互鑑賞する。 ・鑑賞プリントを仕上げる。	・作品の鑑賞は、最初に作成した物語と一緒に言い、一貫してどのように鑑賞が深まっていったかを実感させる。 ・相互鑑賞では、全く同じ古典作品の模倣にも関わらず、ハッチングや人物表現、空間の作り方の違いなど、自作と他者の作品の差異を感じ、その面白さに気付けるようにする。 ・題材の目標についてもう一度話し、鑑賞を通じて作品の理解が深まったか考察する。 ・題材の活動内容についてまとめ、活動でよかった点などを全体に話す。	ア - ① エ - ①②③ (態度、ワークシート)

6 成果と課題

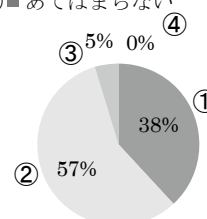
成果

(1) 制作前の鑑賞について

昨年度までの本題材では、鑑賞の活動は制作の後に行う活動であったが、本研究では制作に入る前に、参考作品を対象とし、隅々まで観察して言語化する活動を通じた鑑賞の活動を行った。検証にあたり、制作の前に作品の鑑賞の活動を行い、その後の制作に生かせるようになったかについて事後アンケートを行った。結果、「制作前に絵を言語化することで制作に入りやすくなった」と感じた生徒は全体の約40%、ややあてはまると感じた生徒は約60%とほとんどの生徒が授業前に言語化を行ったことで制作にスムーズに移行できたことが分かった。また、「制作前に絵の言語化をする鑑賞を行った結果、作品の理解は深まった」という問いについては24%の生徒が「あてはまる」と答え、71%の生徒が「ややあてはまる」と答えた。ほとんど全ての生

制作前に絵を言語化することで制作に入りやすくなった

- ① ■ あてはまる
② ■ ややあてはまる
③ ■ あまりあてはまらない
④ ■ あてはまらない



徒が制作前に鑑賞を行った結果、作品への理解を深め、円滑に制作に移行することができる結果となった。自由記述欄には、「言語化してから制作に入るのは、よりその作品に関心をもちながらできると思うからよいと思います。」「物語を作ったり、つぶやきのプリントも楽しかったし、絵をよく見ることができた。この作業はとても大切な制作過程だと思う。全体をとおして楽しいと思った。」等、制作に入る前の鑑賞の効果を見取れる内容が多かった。

(2) 言語活動をとおして育まれた鑑賞の能力について

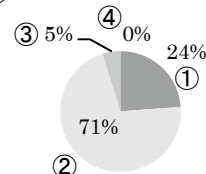
言語能力の育成については、二段階の活動を行った。第一段階は参考作品に描かれている人物が何とつぶやいているのか考える「つぶやきのプリント」の活用である。第二段階は、その人物のうちの一人を主人公にした物語の制作である。「つぶやきのプリント」は、鑑賞の対象とした作品に描かれている人物の状況について思ったことを一言で言及させるプリントであり、後の物語作成の手引きとなるものでもあり、次の制作に円滑に移行するためのツールとして生徒に提示をした。「つぶやき」という言葉を用いたのはSNSをとおして他者へ意思を伝えることに慣れている生徒が興味をもち、意欲的に取り組むことをねらいとしたからである。

事後のアンケートでは約30%の生徒が「そう思う（役立った）」と回答し、60%の生徒が「ややそう思う」と回答した。90%近くの生徒が、言語化する際に役立つツールだと答えた。

また、物語作成は、鑑賞の対象である版画作品の中から主人公を選び、その主人公の立場から、伝える相手にとって分かりやすいストーリーを創造するという言語活動をとおして、基礎力を育成することを目指して設定した。版画作品から得られる視覚情報・空間意識・人物の表情・匂いや感情に至るまで、生徒の感覚で自由に湧出し、一連の関係性の中で物語に紡ぐ活動の中で、基礎的な言語能力を働かせるとともに、相互鑑賞をとおして他者と意思を伝え合うことができるように「つぶやきのプリント」を活用したため、ほとんどの生徒がこの活動をスムーズに行うことができた。さらに、言葉選びや読みやすい文章の構成なども心掛けられたことが、その後の表現の活動にも生かされた。これらのことから、この取組が生徒の基礎力の育成と関連しながら、思考力・実践力の育成にもつながったことが見取れた。

制作前に絵の言語化をする鑑賞を行った結果、作品の理解は深まった

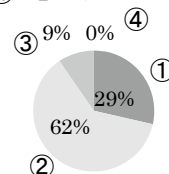
- ① ■ あてはまる
- ② ■ ややあてはまる
- ③ ■ あまりあてはまらない
- ④ ■ あてはまらない



(つぶやきのプリント)

つぶやきのプリントは、物語作成の際に役に立ったか

- ① ■ そう思う
- ② ■ ややそう思う
- ③ ■ あまり思わない
- ④ ■ 思わない



生徒作品

(作品中央下の仰向けの人物を主人公とした。)

「死 希望」

小さいながらに大きな病気を抱えた少女。外の世界を知らず本の知識だけ抱える主人公。文字や写真から想像する外の世界へ惹かれていく中、使用人の世間話を聞く。それは、どんな不治の病でも治せるものが、ここからずっと東の方にいるというウワサ。このまま何も知らずに死にゆくのは嫌だと家族の誰にも告げず家を出て旅に出る決意をする。いろいろな人に助けられながら人間の醜さや温かさを知り、外の世界を知る少女。旅の目的にたどり着く頃にはすでに病気が進んでおり、力も入らず息途絶えることになるが、どこか少女の表情は少し穏やかに見える。

生徒作品

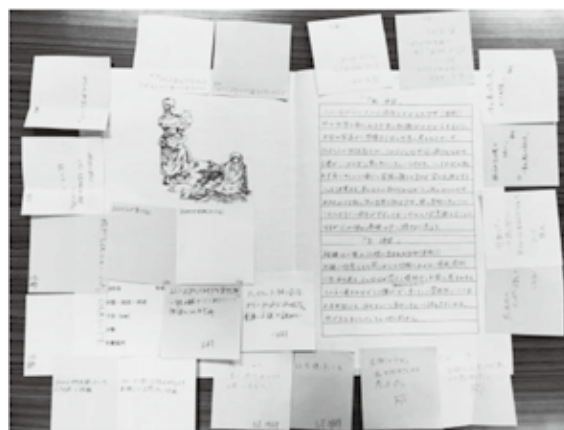
(作品左下の背中を向けて立つ人物を主人公とした。)

～略～ “キリストが病人を癒す” そんな噂が広まったものだから今日もここは病人や老人、その見物客でごった返していた。静かに癒しを受ける者、手を合わせて祈りを捧げる者。皆それぞれここに出向いた目的を果たしていた。しかし私が言いたいのは他でもない。残る“見物客”の事である。「この癒しを信じていいものなのか」「静かにしろ、聞こえたらどうする」だとか、耳を澄ませば、あちらこちらで飛び交っているではないか。人は自分が健康なうちはいくらだって大口が叩けるもの。しかしいざ自分に病が見つければ疑った紙にも命を乞うのだ。と、そんな光景を今日も取り締まることなくただながめている。

(3) 相互鑑賞によって育まれた能力について

鑑賞の力をより育むために、作成した物語を生徒全員で読み合う相互鑑賞を行った。相互鑑賞では、自分以外の生徒が制作した物語を読ませ、用意した黄色の付箋紙に読後の感想、青色の付箋紙に自分には無かった視点を書かせた。この段階の感想については、この後の気付きへつなげるために、読んで素直に感じた感情や思ったことを記入させ、ワークシートにそのまま張り付け、最後に制作した生徒が読めるようにした。この活動は、言語化させ、他者の考えを肯定的に受け入れさせる過程の中で、更に鑑賞の能力が育まれるというねらいに基づいたものである。

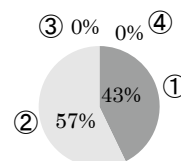
検証のためのアンケートを行った結果、「あてはまる(他の生徒の作成した文章を読んだ後、更に作品への理解が深まった)」と答えた生徒が40%以上、「ややあてはまる」と答えた生徒が60%ほどで、否定的に評価した生徒はいなかった。また、付箋紙についても、「ちゃんと物語になっている。私には、ただの老人にしか見えなかったけど、こういう捉え方もあるんだなって思った。」「犬の視点でまさにその通りだと思わせるようなことが多かった。犬を主人公にもってくるのは盲点だった」「キリストに願いを乞う者たち



(付箋紙を張り付けた相互鑑賞ワークシート)

他の生徒の制作物を読んだ結果、更に作品への理解が深まった。

- ① ■ あてはまる
- ② ■ ややあてはまる
- ③ ■ あまりあてはまらない
- ④ ■ あてはまらない



全体の貧富の差が描かれているところ。」「一見暗い感じの絵を見てこんな風に面白くかけるのはすごい。」等、自身の作品・視点と比較・判断をした上で、他者と言語を駆使して伝え合えたことが見取れた。

このようなアンケートの結果からも、相互鑑賞によって、相手の考え方や自分との相違点を見付けさせ、更に自分の考え方を深化させられたことが明らかである。

また、アンケートの自由記述欄では、「色々な考え方があって面白いと感じた。」「僕は物事をあまり深く考えず、目の前の事、起こったことなどを書くので、疾患や疫病などをメインに書きましたが、他の方は、ファンタジーチックに書いていたので、様々な見方があって面白いと感じました。」「発表などがあり、自分のペースで進められないが、他の意見を聞けて楽しい。」等の肯定的な記述が多く見られた。

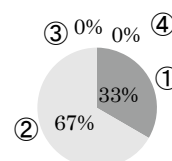
以上の結果から、今回の検証授業における鑑賞の活動によって、生徒が主体性をもって自己の見方、考え方で作品を捉え、言語を駆使して他者と伝え合うことについての成果を挙げることができたと考える。

課題

アンケートの自由記述欄等からは、今回のような形式の鑑賞の活動に慣れていないために躊躇したり、時間がかかったりする生徒が一定数いることが明らかとなった。今後の課題として、さらに指導方法の改善を図る。

他の生徒の制作物を読んで他の意見や考えを肯定的に受け入れることができ、また、自分の意見や考えを深めることができた。

- ① ■ あてはまる
- ② ■ ややあてはまる
- ③ ■ あまりあてはまらない
- ④ ■ あてはまらない



(相互鑑賞中の生徒の様子)

検証授業Ⅲ

科目名	芸術（美術Ⅱ）	学年	2年
-----	---------	----	----

1 題材名

「10年後の私の部屋 ～建築模型制作～」 A表現（2）ア、イ、ウ B鑑賞 ア、イ

2 題材の指導目標

建築と生活の関わりについて興味をもち、心豊かな将来の生活を想像しつつ、美しさと住みやすさを考えながら創造的に制作することを通じて、社会における建築について理解を深める。

3 本題材と研究主題との関連について

取組の方向性である「21世紀型能力」における「実践力」を育むためには、社会と連携した鑑賞の活動を実践することが必要だと考えた。そこで、本題材では導入時に、専門学校生の制作した建築模型を鑑賞させた。

まず、一人で建築模型と向き合い鑑賞し、何を制作テーマとしているか、どのような点が工夫して制作されているのかを、主体的に考察して自分の考えをまとめさせた。その後、グループで協働的に鑑賞し、他者の意見や見方を知ることにより考えを深めさせた。グループで鑑賞する際には、互いに批評し合い意見をまとめ、皆の前で発表させた。最後に、専門学校生の建築模型の制作テーマを知ることにより、社会における建築はどのような意図や工夫で作られているのかを理解させた。

これらの活動を通じて、日常生活や社会、環境の中に問題を見付け出し、他者や社会の重要性を感得できるようにすることで、主に生徒の「実践力」を育むことを目指した。以下に具体的な方策を示す。

(1) 主に思考力を育む鑑賞の活動

実際の建築を知ることにより、自分の経験から判断するだけではなく、主体的に鑑賞することができる。また、他者の意見を取り入れ、自分の考えをより深いものにする。

(2) 主に基礎力を育む鑑賞の活動

グループで意見をまとめる協働的な活動の際には、自分の考えを言語化して分かりやすく相手に伝えなければならない。自己の見方、考え方で作品を捉え、言語を駆使して他者に伝える。

(3) 主に実践力を育む鑑賞の活動

どのように建築物が作られているのかを知ることにより、自分と社会との関わりについて関心を深める。また、グループで協働して意見をまとめる活動を通して、他者の意見を受け入れ、自分の意見を相手に伝え、互いに批評できるようにする。

4 評価規準

	ア 美術への 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規準	①建築と生活の関わりについて興味をもち、自らの生活をよりよくするための方法を考え、深く知ろうとしている。 ②表現の主題や方法などに広く関心をもち、自己の表現に生かそうとしている。	①心豊かな将来の生活を想像し、目的をもって用途や美しさを考慮して表現を構想している。 ②日々の生活を振り返り解決すべき課題を発見して、住みやすさを考えて主題を生成し、創造的な表現に生かす工夫している。	①自らの構想を形にする際に、材料や道具の役割を理解して適切に扱い表現している。 ②自分がデザインしたものを表現するために、丁寧に材料や道具を扱い、ゆがみやずれのない部屋を組み立てる技能を身に付けている。	①制作者の狙いや表現の工夫、生活に根差した部屋の構造の意図などについて理解を深め、作品のよさや美しさを味わっている。 ②建築が私たちの社会において、生活を豊かなものになっていることについて理解を深めている。

5 題材の指導と評価規準（12時間扱い）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第1時	・専門学校生の制作した建築模型を鑑賞しながら、制作意図や目的を考察する。 ・最初に一人で鑑賞し、くじ引きで決めたグループで鑑賞し意見をまとめる。 ・グループで話し合った、意見を発表する。	・制作者の意図や表現の工夫について考察し、協働して意見をまとめられるように指導する。	ア－②、エ－① (発言、ワークシート)
第2時	・専門学校生の制作した建築模型の制作意図や目的を知り、実際の建築物について学ぶ(専門学校講師による講義を聞く。)	・建築と社会との関わりについて関心を持ち、社会における建築について理解を深めさせる。	ア－①、エ－② (態度、ワークシート)
第3時	・部屋の大きさに応じて、自分の人形を制作する。 (6畳：14cm、8畳：11cm 10畳：8cm)	・部屋の機能や大きさを考え、適切なサイズを設定させる。	ア－②、イ－① ウ－① (態度、作品)
第4時	・材料にスチロールボードを用い、決められた寸法で模型の外壁を制作する。 (床面積21×28cm。外壁の高さは人形の1.5倍)	・あらかじめ決めた計画通りに寸法を測らせ、スチロールボードの特性を理解し丁寧に制作できるように指導する。	ア－①、エ－① (態度、作品)
第5～8時	・材料にスチロールボード等を用い、機能を考えながら、生活に必要な家具を制作する。 人形の大きさを目安にして、家具の寸法を決定する。	・部屋の機能を考慮し適切なサイズやデザインをできるように、実際の家具などを紹介して考えを深めさせる。 ・適切に材料や用具を使い、ずれのないように丁寧に制作を進めるように指導する。	ア－②、イ－② ウ－② (態度、作品)

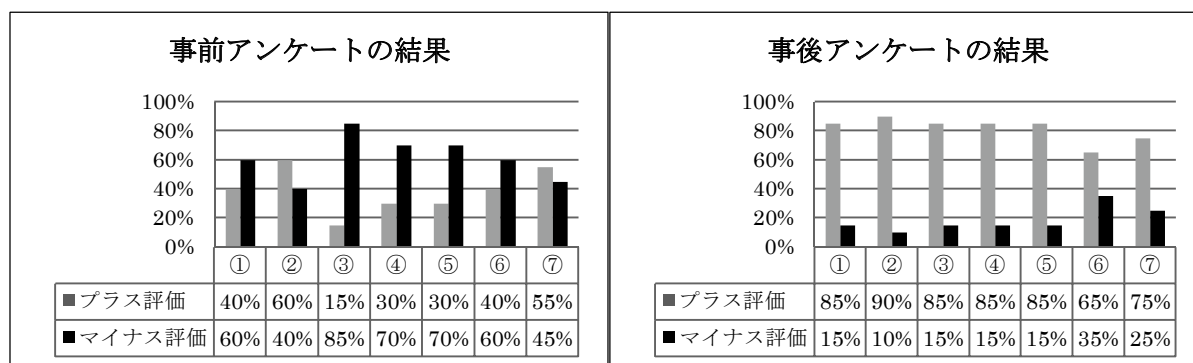
第9 ～ 11 時	・材料にスチロールボード又は必要な素材を用い、住みやすさや目的を考えながら、生活に必要な小物を制作する。	・どのような小物があれば生活が充実するかを考え、適切なサイズやデザインで小物を制作させる。 ・適切に材料や用具を扱い、ずれなく丁寧に作ることを意識させる。	アー②、イー② ウー② (態度、作品)
第12 時	・互いに制作した作品を鑑賞する。	・制作者の意図を理解させ、適切なデザインかどうか評価できるように指導する。	アー①、エー① (態度、作品)

6 成果と課題

今回、事前と事後にアンケートを実施した。そのデータを基に検証する。

事前	事後
①あなたの住んでいる建物がどのような工夫をこらして作られたか興味はありますか。	①あなたの住んでいる建物がどのように工夫をこらして作られたか興味をもちましたか。
②社会では建物がどのような工夫をこらして作られているか興味はありますか。	②社会では建物がどのような工夫をこらして作られているか興味をもちましたか。
③社会では建築家がどのような目的や意図をもって家を建築しているか想像できますか。	③社会では建築家がどのような意図をもって家を建築しているか想像できましたか。
④作品を見るとときに、一人だけではなく、グループで鑑賞したいと思いますか。	④グループで鑑賞したことによって、一人で考えるよりも多くのことが分かりましたか。
⑤これから建築模型を作ることを楽しみにしていますか。	⑤これから建築模型を作ることが楽しみにになりましたか。
⑥あなたが作る建築模型の完成形が想像できますか。	⑥あなたが作る建築模型の完成形が想像できますか。
⑦あなたが将来住みたい家を想像できますか。	⑦あなたが将来住みたい家を想像できましたか。

(アンケート項目)



(プラス評価「とてもある」「少しある」 マイナス評価「あまりない」「全くない」)

(1) 建築と生活の関わりについて興味をもてたか。(アンケート①②の結果より)

事前アンケートの結果によると、自分の住まいや社会における建築物への興味・関心は高くない。しかし、事後アンケートでは興味・関心が高まっている。とくに、「あまりない」「全くない」の人数が減り、85%以上の生徒が興味・関心をもてるようになっている。

(2) 建築家の制作意図についての考察(アンケート③の結果より)

事前アンケートでは、85%の生徒が建築家はどのような意図をもって制作しているか想像

できなかった。これは、日頃、建築物について関心をもっていないからだと思われる。また、建築についての知識が足りないことも推測される。事後アンケートでは、想像できない生徒は15%にとどまり、85%の生徒が想像できるようになった。

(3) 建築模型を作ることへの興味・関心（アンケート⑤の結果より）

事前アンケートでは、建築模型を作ることに対して興味・関心をもっている生徒は、30%だった。しかし、事後アンケートでは、85%の生徒が「すごく楽しみ」「少し楽しみ」と回答した。中でも、「すごく楽しみ」と答えた生徒は、事前アンケートでは0%だったのに対して、事後アンケートでは30%まで増えている。本検証授業で生徒の意欲が向上したと言える。

(4) 制作する建築模型についての発想・構想（アンケート⑥⑦の結果より）

本題材では、まず将来住みたい家を想像して、建築模型についての構想を練る必要がある。鑑賞の活動を通じて、65%の生徒が建築模型の完成形を想像できるようになった。しかし、他の項目と比べて人数に大きな変動がないため、本題材だけでは発想・構想までつなげることは難しいと考えられる。

(5) グループで協働的な活動を行った成果（アンケート④の結果より）

事前アンケートでは、「グループで鑑賞したい」と答えた生徒は30%であった。事後アンケートでは「グループで鑑賞して一人で考えるよりも多くのことが分かった」と答えた生徒は、85%にまで増加している。中でも、「すごく思う」と答えた生徒は30%もあり、協働的な活動が生徒に満足感を与えたと言える。

成果

検証授業を分析すると、主体的・協働的な鑑賞の活動を通じて、生徒の興味・関心が高まったことが見取れる結果となった。発想・構想についても、深めることができたと捉えられる。また、「実践力」を育むために、専門学校と連携した授業を实践したが、生徒の感想文から、社会について知ることは自己と社会の関わりについて関心を深めることであり、これから生きていく社会について考えるきっかけになるということを改めて再確認する結果となった。

なお、今回、グループで活動をする際に、くじ引きで席を決めた。社会では好きな人とだけ関わって生きていけるわけではないことを伝え、より実態に近い形で検証を行う意図があった。当初はスムーズに話合いができるか心配な部分が多々あったが、アンケートに書かれた生徒の感想文からは、たとえ仲のよい者同士ではなくとも協働的に学ぶ活動を通じて生徒は達成感を得ていることが確認され、他者と自分の考えを伝え合える「基礎力」が育まれたことを感じられた。さらに、専門学校生の制作した建築模型を鑑賞したことによる生徒の変容も見取れた。鑑賞の活動に取り組む前は、思いついたアイデアを推こうすることなく制作しようとするなど、主体的にアイデアを深めることが難しかった。しかし、鑑賞の活動に取り組んだ後は、資料などを参照し主体的にアイデアを深めようとする姿勢が見られた。また、協働的にアドバイスをし合い、一つ一つの工程に丁寧に取り組み、少しでもずれのないように模型を組み立てようとする姿勢が見られ、自分で問題解決できる「思考力」、社会と関わりを深める「実践力」が育まれたことを感じられた。

- ・将来、自分の家を自分で設計してみたいと思いました。また、建築に興味が湧きました。今やっている課題を丁寧に完成させたいと思いました。
- ・しっかりとコンセプトをもって家（部屋）を考えることが重要だと分かりました。コンセプトが決まっていなくてベースができず、何も進まないなと思いました。
- ・工夫したところなどは一人で考えられなかったけど、説明を受けてよく理解できました。
- ・専門学校の先生の建築の話や、授業でやる建築模型へのアドバイスがためになったし分かりやすかった。とても、楽しい授業だった。
- ・専門学校の生の建築模型を見て、それぞれ個性的な作品で驚きました。こんな家があったらいいなと少し想像することができました。
- ・部屋を一つ考えるのにこんなに工夫されていて面白かった。相手のことを考えながら一つ一つ丁寧に細かく作ることで、たくさんの人が楽しめるんだなと思ったし、これも相手のことを思いやってこそできることだと思った。

(生徒の感想)

課題

ワークシートやグループ発表の内容の分析からは、生徒が専門学校の生の建築模型の制作意図や工夫した点などについて十分に理解できたとは言えない。制作者の意図をしっかりと読み取り、自己の表現に生かせるようにさせるためには、主体的・協働的な鑑賞の活動が続けていく必要がある。継続的に多様な作品を鑑賞することによって鑑賞の能力が高まり、より多くのことを学び取ることができるようになると考えられる。



(建築模型を鑑賞する様子)

また、建築模型をどのように鑑賞すればいいか悩む生徒も見られた。検証授業では外部講師による講義を取り入れ、生徒の建築への興味・関心を高められたが、適切な鑑賞の方法をきめ細かく事前指導することについての課題も明らかとなった。

美術Ⅱ授業ワークシート	
2年1組10号	
～事前アンケート～※口をつけてください	①あなたの住んでいる家がどのような工夫をこらして作られたか興味がありますか すこくある□□少しある□□あまりない□□全くない ②社会では家がどのような工夫をこらして作られているか興味がありますか すこくある□□少しある□□あまりない□□全くない ③社会では建築家がどのような目的や意図をもって家を建築しているか想像できますか すこく想像できる□□少し想像できる□□あまり想像できない□□全く想像できない ④作品を見る時に、一人だけではなく、グループで鑑賞したいと思いませんか すこく思う□□少し思う□□あまり思わない□□全く思わない
～これから制作する建築模型について聞きます～※口をつけてください	⑤これから建築模型を作ることを楽しみにしていますか すこく楽しみ□□少し楽しみ□□あまり楽しみではない□□全く楽しみではない ⑥あなたが作る建築模型の活かし方が想像できますか すこくできている□□少しできている□□あまりできていない□□全くできていない ⑦あなたが将来住みたい家を想像できますか すこく想像できる□□少し想像できる□□あまり想像できない□□全く想像できない
	※一人で鑑賞し、感じたことを書いてみよう デザインのテーマはなんだろう。 建築模型のどこを見てどのように考えましたが、その意図とその理由を書いてください。 建築模型でとくに工夫されていると感じた意図とその理由を書いてください。(複数挙げても構いません) ※グループで鑑賞し、話し合った考えを書いてみよう デザインのテーマはなんだろう。 建築模型のどこを見てどのように考えましたが、その意図とその理由を書いてください。 建築模型でとくに工夫されていると感じた意図とその理由を書いてください。

(ワークシート表面)

VI 研究の成果

本研究は「鑑賞の活動において、主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れることにより、生徒の思考力・基礎力・実践力（21 世紀型能力）が育まれる」と仮説を設定し、三つの検証授業にそれぞれ「思考力」、「基礎力」、「実践力」を育むための取組の方向性をもたせて鑑賞の指導方法の改善を図り、その成果と課題を分析して検証を行った。

検証授業Ⅰ（主に思考力を育む鑑賞の活動）では、デザインの仮決定の時点で、生徒が他者（クラスの全生徒）の下図を鑑賞し、改善点を指摘するようなコメントを書くという内容の活動を設けた。そして、他者からの意見を参考に自己の考えを再構築し、デザインの本決定に生かすという活動につなげた。この授業により、目指す生徒像である「物事を多様な視点から論理的に考察できる生徒」の実現のため、生徒の思考力がいかに育まれるかを検証した。

検証授業Ⅱ（主に基礎力を育む鑑賞の活動）では、模写制作の前に対象をより深く鑑賞する活動として、絵から読み取れる人物の心情や感情を言葉で書かせたり、そのうちの一人を主人公にした物語の創作文を書かせたりして、実際に描く前に自己が対象から受けたイメージを他者と伝え合う活動を設けた。この授業により、目指す生徒像である「他者と意志を明確に伝え合える生徒」の実現のため、生徒の基礎力がいかに育まれるかを検証した。

検証授業Ⅲ（主に実践力を育む鑑賞の活動）では、社会と自分との関係性を建築模型の鑑賞でつないだ。また、専門学校生の作品を鑑賞することで、発想や構想、制作のコンセプトをどのような視点で考え、表現につなげるかといった実践力に結びつく鑑賞の活動にもなった。この授業により、目指す生徒像である「日常生活や社会、環境の中に問題点を見付け出し、他者や社会の重要性を感得できる生徒」の実現のため、生徒の実践力がいかに育まれるかを検証した。

各検証授業における鑑賞の活動に共通する重要な要素は、「21 世紀型能力」の中でも中核とされている批判的思考力である。新しい時代に必要となる生徒の資質・能力を育むためには、高等学校芸術科（美術）の授業においても生徒の批判的思考力を育む指導をする必要がある。しかしながら、これまで意図的に取り組んでいた教師は多くはないことが推測される。

今回の三つの検証授業では、教師がディスカッションや文章表現、プレゼンテーションなど様々な形式の鑑賞の活動をととして生徒の鑑賞の能力とともに、意図的に批判的思考力を育む取組を行った。その結果は、各検証授業の成果に記されているとおりである。アンケート結果等の分析では、授業前と後では明らかに美術に対する興味・関心とともに、自分の作品や他者の作品を深く鑑賞する能力が育まれたことが見取れる。

また、検証授業以外の、平成 27 年度教育研究員の普段の授業においても主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れた鑑賞の活動を行うことで、生徒の資質・能力がより育まれ、学校外のコンクールの受賞等の成績向上に波及したという事例もあった。

これらの検証授業及び各研究員の取組から、鑑賞の活動において、主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れることにより、生徒の思考力・基礎力・実践力（21 世紀型能力）の育成とともに、鑑賞の活動の学びはさらに深まり、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」がより育成されることが検証された。すなわち、これらが双方向に関連し合いながら働くことも確信する結果となった。

VII 今後の課題

1 指導計画の作成について

本研究では、検証授業を実施した三校の生徒にとっては、これまでの鑑賞の活動ではあまり経験したことのない、ディスカッションやプレゼンテーション、相互鑑賞などの形式を意図的に取り入れた。しかし、授業中にどうしていいかわからない生徒が躊躇する様子も見られ、アンケートにおいて「ややあてはまらない」等の回答が少数ではあるが集計される結果になったと思われる。すなわち、主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れた鑑賞の活動を更に充実させるためには、活動の形式を生徒にとってより理解しやすいものとし、そのねらいを丁寧に伝える必要があると考える。

また、生徒が相互鑑賞等を想定し、見通しをもちながら表現の活動を行うことを通して、今まで以上に主題の生成や表現の方法に工夫が生まれ、更に主体的な活動につながることも期待できる。

これらのことから、主体的・協働的に学ぶ学習に係る指導方法の改善のためには、各題材を一つのまとまりとするだけでなく、年間指導計画においても、積み上げと繰り返しによって関連付けられた育成の計画を立てる必要がある。

2 生徒への支援について

検証授業Ⅲでは、おおよそ初めて目にした建築模型を目の前に、何を、どのように鑑賞し、どうアウトプットしてよいかわからない生徒が見られた。学校ごとの生徒の実態は様々であり、生徒一人一人の個性もまた様々である。生徒が育成された資質・能力を働かせ、鑑賞の活動を更に充実させるためには、教師が適切な時期に適切な方法に関わり、生徒同士の合意形成や相互理解を支援することが必要になる。

生徒による課題の発見・解決のためには、言うまでもなく主体的に取り組ませることが重要であるが、自校の生徒の実態に応じた題材設定とともに、視点の持たせ方やワークシートの書かせ方等についての教師の声掛けによって生徒の活動は大きく変わることも分かった。すなわち、教師は生徒理解に基づいた支援の計画を立てた上で、鑑賞の活動中に意図的に支援を行う必要がある。

3 教科において本研究が果たす役割について

本研究のような鑑賞の活動についてはまだ実践例が少なく、意図的に取り組んでいる教師は多くはないことが推測される。21世紀型能力の育成にあたり他の教科等も様々な取組を試行錯誤している現在、高等学校芸術科（美術）もその役割を果たさねばならないことは明らかである。また、平成27年8月26日には中央教育審議会教育課程企画特別部会による「論点整理」が取りまとめられた。関係資料中の「育成すべき資質・能力と、学習指導要領等の構造化の方向性について」では「学習活動の示し方や『アクティブ・ラーニング』の意義等」が示される等、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの在り方については、学習指導要領の次期改訂への動きに伴い、さらに検討が重ねられることが考えられる。

本研究は、本研究をもって終わりとするのではなく、平成27年度教育研究員個人として、国の動向等を注視しながら指導方法の不断の見直しをするとともに、このような取組を東京都全体に発信し、更に伝え広げる方法を模索していかなければならない。

平成27年度 教育研究員名簿

高等学校・芸術（美術）

学 校 名	課程	職 名	氏 名
都立一橋高等学校	定時制	主任教諭	◎西 田 昌 弘
都立葛飾総合高等学校	全日制	主任教諭	吉 村 千 秋
都立浅草高等学校	定時制	教 諭	甲 斐 健 太
都立両国高等学校	全日制	主任教諭	中 西 一 洋

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育経営課
指導主事 井 上 天 平

平成 2 7 年度
教育研究員研究報告書

高等学校・芸術(美術)

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 2 7 年度第 1 9 7 号〕
平成 2 8 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社